

第2回県立万葉文化館・万葉集を活用した授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 平成29年10月09日(月・祝)
- ◇会場 次世代教員養成センター 会議室
- ◇参加者 篠原(光明中)、石原・新宮(平城小)、中澤(平群北小)、
北村(御所市教育委員)、中澤(奈良教育大学)

◇内容

(1) 総合「なら」 「その名もゆかし わが平城」

「ぼくらの町をたんけん・はっけん・ほっとけん！」奈良市立平城小学校 新宮先生

- ・校歌や校名から平城をとらえさせる
- ・「青丹よし 寧楽の京師(みやこ)は 咲く花の 薫ふがごとく 今盛りなり」
- ・「ゆかし」の意味は・・・心ひかれる、そのものに寄っていきたい、潜在的なもの
なつかしい 人・食べ物・生活
今の様子を知りたい
- ・ゆかしの意味を子どもなりにとらえさせるために、「万葉集の漫画」を用いる
- ・平城宮の建物と当時の地方の建物 (竪穴式住居・瓦ぶき)
- ・服装(大宮人)
- ・児童が調べて当時の平城宮の暮らしが豪華だったことを理解し、室長さんに補強してもらう。
- ・平城小学校の校名 平城=なら 韓国語では「くに」の意味
- ・井上さんに万葉集について子どもたちに解説してもらうのはいい。

(2) 「まるであん号？九九を使って短歌にちょうせん」平群北小学校 中澤先生

「短歌を楽しもう」

- ・万葉集について知る
現代にも通じているところがある 自然について、恋人を思う気持ち
- ・万葉集の「数字遊び」について知る
- ・短歌のリズムの面白さに気づく 5・7・5・7・7の言葉を短冊に書き、ランダムにつないで短歌にしていく
- ・意味が通じない歌ができて、その場面や情景を子どもに自由に解釈させる面白さ
短歌や俳句は読み手に自由があたえられている。違いを楽しむ 国語の楽しさ
- ・数字遊びより「言葉遊び」の方が発想が広がるのでは
- ・一次のところを自然や気持ちよりも「言葉遊び」に焦点化した方がよいのでは



(3) 「未来に伝えたい「いま」 奈良市立平城小学校 石原先生

- ・ 詩を作る際に「万葉集」を手がかりにしていく
- ・ 序詞を使った詩をつくる
○○のようにを使わないでたとえる「隠喩」
- ・ 枕詞：多くの人を使うもの
- ・ 序詞：個人的表現
誰も座らない椅子
- ・ 自由詩については、普段から取り組んでいる。慣れている。
- ・ 思ったことを自由に書かせる
(どう思われるかでなく)



最初は書ける子と書けない子がいるが、互いに交流させることで、「こんなんでもいいんだ」から書ける子が増えていく。子どもの詩集からいくつか紹介する。モデリングの一種か。

(4) 「現代と過去の「生駒山」に対するイメージをふくらませよう 生駒市立光明中学校 篠原先生

- ・ 校歌を導入に 5・7調
- ・ 唱歌も5・7調が多い。それが校歌にも使われている
- ・ 校歌に記されている意味を考え、グループで交流する
- ・ 「生駒山」に対するイメージを問い直す (今はあまり意識していないと思われる)
- ・ 校歌にある「生駒山」の象徴内容を考える。 自然・崇高
- ・ 万葉集にある「生駒山」を扱った歌 (6つの和歌) の象徴内容を考える

境界・険路・崇高

乗り越えていく それでも会いたい

- ①
- ②境界
- ③境界・会いたい
- ④境界
- ⑤険路・境界
- ⑥崇高

- ・ 生駒山を扱った和歌づくり
- ・ 各時代の「生駒山」を取り扱った歌を並べてみるのも面白い
- ・ 明治近代化以前の日本人の自然観

